

平成 23 年 4 月 7 日

(社) 全日本空道連盟 理事長

大道塾 代表師範・塾長 東 孝

3・11 東日本大震災チャリティー
2011 北斗旗 全日本 空道体力別選手権大会
全日本ビジネスマン空道選抜大会
開催のお知らせ

皆様ご存じの通り、去る 3 月 11 日、東北地方および関東地方に 1000 年に一度という大事地震が発生しそれに伴う津波や火事による大震災へと拡大致しました。

一日も早くと思いながらアクセスの方法(道路、ガソリン等々)がなく被災後 18 日目にしてようやく、現場に足を踏み入れてその惨状に言葉を失いました。ここに改めて被害に遭われた多くの方々への、心からのお見舞い並びに哀悼の意を表させて頂きたいと思えます。

この震災により、今年は 2 年振りに空道・大道塾に取って発祥の地である仙台市での「2011 北斗旗 全日本空道体力別大会」が予定されておりましたが、宮城県での被害が特に大きく、予定されていた「東北予選」だけでなく、青葉区体育館での「全日本大会」も開催は不可能となりました。

そこで今年の体力別大会をどうするかについて役員や各支部長で協議した結果、「大変困難な状況ではあるが、逆にこういう時だから武道の底力を示さなくては」とか「チャリティー大会として収益を義援金とする」、「仙台以外の都市で」等々の意見(※)が多く出たので、三役で最終協議をし、開催を決定しました。

所が、大概の体育施設は既に今年度の使用調整会議を終えており、また、大会数の多い東京では無理ということで、急遽、中部及び関西の両地区本部に依頼し会場探しをする事になりましたが、幸いにもこれまでも経験のある名古屋の「愛知県武道館」が 5 月 22 日、1 日だけですが空きがあり使わせて頂く事になりました。

さて、震災復興を祈念して行うとは言っても、別の意味では、今年の 2 月 19 日にロシア・モスクワ行われた、日本以外で 30 数ヶ国を集めて行われた初の「第 1 回ワールドカップ」では残念ながら日本勢は「第 3 回世界大会」での雪辱はできませんでした。

既に我々が目標としている、「一般社会から必要とされる体育としての空道」という地位を築いたかに見えるロシアや、そこまでではないにしろ、旧ソ連圏の国々も、元々身体能力に優れている上に「空道の指導が職業として成り立つ」経済基盤までも伴い、その発展は目を見張るものがあります。

一方、日本社会が戦後一貫して武道的なるものを潜在的に忌避し、選手自体も試合や大会を、「格闘技という技術の交換」として捉えてきた風潮からは、この差異を乗り越えようとする発想は生まれず、将来にも悲観的にならざるをえませんでした。

しかし、この度の大震災で多くの識者のみならず市井の人々の間でも良く言われるように、克服までには長く掛かるであろう今回の「東日本大震災」や、予想される「第二次関東大震災」への備えは、戦後 60 数年間で失われた、日本人が本来持っていた団結心や責任感、大きな困難や障害(=敵)に立ち向かう不屈の精神、と言った(武道本来の)価値観をも蘇らせてくれるかもしれません。

そう言う意味で我々武道人は、今大会が「3・11 東日本大震災チャリティー」であると同時に「武道の復権」という意識も持って臨みたいものだと思います。

＜大会実施要項＞

催事名称 「3・11 東日本大震災 チャリティー 2011 北斗旗 全日本 空道体力別選手権大会・
全日本ビジネスマン空道選抜大会」
主 催 (社)全日本空道連盟 主 管 大道塾総本部 北斗旗実行委員会
日 時 平成 23 年 5 月 22 日 (日) / 会 場 愛知県武道館
入 場 料 全席: 当日 2,000 円【すべて義援金となります】 前売りチケットはありません。高校生以下無料

※: 総本部よりの東北地区、関東地区へのアンケート文面。

「さて、昨日の関東予選で東北地区以外の予選は全てが終わりました。『本大会』開催に付いて地区予選ごとに協議してきましたが、『まず被害を受けた東北地区（特に宮城県）の支部の希望を聞いて決めるべきだ』という意見と、『こういう時期だからこそ我々が彼らに元気を取り戻してもらの意味で実行すべきだ』という意見がありました。東北地区のいくつかの支部からも『大会を開催するなら〇〇選手を推薦したい』とか、選手個人で尋ねてきた場合もあります。

会場側への返答期限（4月7日まで）の関係上、支部長の皆様のご意見をそれまでにお聞かせ下さい。尚、決定された推薦選手や審判、運営会議参加者が被災者の場合、交通費、宿泊代、食事代は総本部で負担します。」

アンケート回答より抜粋

● 支援される側が言うのもおかしいのですが、復興支援チャリティー大会として開催するならば大道塾の趣旨にあった活動ができ、外部への理解も得られ、やる価値があると考えます。

チャリティー大会として多くの方に来場してもらうには、近年の宣伝活動をあまり行わないのでは効果は薄いと思いますので、チャリティーを前面に出した大会告知、宣伝を多く行いより多くの方が来場する環境を整える必要があると思います。

大会会場は来場者を多くするということから東北以外がいいかと思えます。ただ、宮城に大道塾が根付いている事、被災者に闘う姿を見せるということを考えれば仙台開催も有効と思えます。

チャリティーでない通常の大会であれば今回は中止がいいかと思えます。また、来場者獲得のためにファンの多い、先輩方の模範試合や歴代チャンピオンの演武などを行うのもいいかと思えます。ご参考になれば幸いです。

● お疲れ様です。この度の震災被害、まだまだ、現状復帰、ほど遠いものがあるよう見られます。支部生でも、ドクター、電気屋、建具屋、工務店が現地入りし、生々しい光景だと被害状況聞いております。そういう状況化のなか、東北で大会を開催すること。難しいことと思えますが、5月ならあの地震から2ヶ月経過、そろそろ現状復帰するという考えでよろしいかと思えます。一応、所属の部署でも、4月末まで自肅体制、5月から規模縮小としても徐々に、各種イベント関連開催していこうと考えています。被災地の方からすれば、いまこういう中で元気づけられるという方もいるようですが、こんな俺達が苦勞している時にとんでもないという方もあるようです。陸前高田でもどなり声と泣く声ばかり……現地入りしている方は、こんな時におれたちはしあわせだと、うちの道場生も話していました。ですが、5月15日 復興して2ヶ月、先生が言っています。大道塾の武道の志をこういうときに示すころとして最適である時期でもあると考えます。いかがでしょうか。

● 前略 東北大会開催への意見ですが、まず当地区においては先月11日の震災以降一ヶ月道場を休み昨日やっと活動を再開しました。震災後三日間の全面停電と、後のガソリンなどの供給不足などなど。節電への協力とガソリンが無く移動が出来なかったからです。予選に申込みがあった一人に、推薦で申込みが出来る旨伝えましたが移動も出来ず練習場所も相手もないとのことで辞退しました。山形県でさえそうした状態でしたので、特に宮城県や被災地近くの道場生は練

習どころではなかったのではないかと想像します。東根は再開はしましたが、やはり節電協力の報道は続いています。道場での夜間の自主トレは全面禁止にしました。輦蹙をかうからです。(開催して元気を・・・)とありますが、空道の大会は野球やサッカーの大会の様には理解されないと思います。まず被災地の選手の練習不足でのハンディーやモジベーション不足・時期がまだ経過していないことでの被災者への心情で自分は仙台での大会は反対します。もし開会とするならば、◆最低三ヶ月ほど先に延す。◆開催地を東京にする。◆如何しても言うのであればチャリティーとして開催する。

● それから、全日本大会開催の件ですが、私も個人的には、親類を亡くしその家も無くし震災ショックから立ち直れていませんし、他の宮城県の支部塾生や関係者も同様の精神状態と思われる。しかしながら、本大会を目指して一年間頑張ってきた選手・関係者のことを考えた時、あるいはこんな時こそ前を向いて一致団結し大道塾魂を世に問うとした考えの場合、それもありかなと思います。したがって本大会開催は賛成といたします。

● オス、東北本部は開催希望で参加希望です。私(コノネンコ)のほかに、「東北がんばれ！」という意味で東北本部の○○選手、△△選手(中量級)、□□さん(超重量級)、ビジネス部、4級だけど出てみたい○△君がいます。是非、ご検討お願いします。(※大会事務局にて匿名に修正しました。)

● 東北地区の皆様の状態がある程度、安定するまで延期、或いは今回は中止にされた方が良いのでは、と思います。東北地区の選手に余りに不利ですし、参加すら困難だと思います。東北地区の皆様の気持ちを考える事が一番大切だと思いますので、難しい判断だと思いますが・・・。